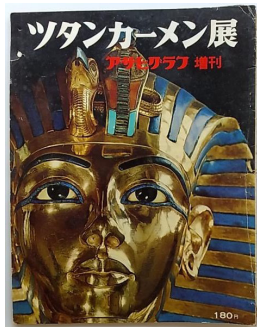


世界遺産アカデミー認定講師 File No.57

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当てて、お話を伺います。第57回目は、北九州市を拠点に世界遺産講座を行っている八山 哲夫 さんです。人生を豊かにしてくれた世界遺産との出会い、そして、世界遺産を通じて得た学びを次の世代へ伝えたい、という想いを語っていただきました。

——世界遺産との出会いが人生を豊かに

世界遺産に関心を持ったきっかけは、テレビの特集番組でした。「世界遺産」という言葉の響きに魅力を感じ、「古い」、「大きい」、「美しい」、「すごい」といった素朴な感動を覚えたことを、今でもよく覚えています。2010年の夏には、北九州市から日帰りです「石見銀山遺跡とその文化的景観」、「広島平和記念碑(原爆ドーム)」、「厳島神社」を訪れました。また、それ以前にも知床、屋久島、平泉などを訪れており、世界遺産にはもともと関心を抱いていました。70歳で現役を引退した頃は、新型コロナウイルス感染症が広がり始めた時期でした。これからの時間を有意義に過ごしたい、頭の体操にもなる何かに挑戦したい、と考えていた折、世界遺産検定の存在を知りました。読書や登山(南北アルプスへの山行は7年間継続)、ウォーキング、ゴルフなど多趣味ではありますが、後期高齢者になる前にマスター合格を目標に掲げて学習を続け、2024年1月、その目標を達成することができました。喜寿を迎えた今でも、学んだ知識を活かしながら新たな発見に出会えることを、喜びに感じています。勉強を通じて、気候変動やプラスチック汚染などの環境問題が世界遺産の存続に深刻な影響を及ぼしていることを学ぶ機会にも恵まれました。特に印象深かったのは、世界遺産誕生の契機となった「ヌビア遺跡の救済キャンペーン」です。1960年から始まったこの国際的な取り組みの中で、エジプト政府は資金調達のため、ツタンカーメンの遺宝をはじめ

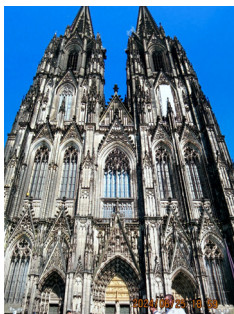


アサヒグラフ増刊『ツタンカーメン展』

とする貴重な文化財を海外で公開し、各国に支援を呼びかけました。1966年には『ツタンカーメン展』が福岡市にも巡回し、私も足を運びました。当時支払った200円の入場料が、遠くエジプトの遺跡保存に少しでも役立っていたのだと思うと、深い感慨を覚えます。さらに、地球温暖化によるサンゴ礁の白化現象や氷河・氷床の融解、海面上昇による島嶼国の水没危機、森林火災の増加、大雨による土壌流失・景観喪失などの環境問題は、多くの世界遺産に深刻な影響を与えています。私の地元・宗像や厳島神社周辺に確認されているプラスチックの漂着ごみは、生態系も脅かしています。世界遺産との出会いによって得られた学びは、私の人生をより豊かなものにしてくれました。これからも、世界遺産を通じた新たな発見を重ねていきたいと思っています。

——心に刻まれた世界遺産、未来への期待

2024年6月23日(日)から7月2日(火)までの10日間、ドイツ・オーストリアを旅行し、8件の世界遺産を巡りました。その中で、特に興味が引かれたのは、3件。『ハルシュタット＝ダッハシュタイン/ザルツカンマーグートの文化的景観』では、美しい景観に加え、人々の営みと自然が長い年月をかけて築いた「文化的景観」の価値を実感し、地域のコミュニティが景観を守り続けていることも印象に残りました。



ケルンの大聖堂

『ケルンの大聖堂』では、完成まで600年以上を要した、その高さ157mの壮大な姿を前に、周囲の高層建築が景観を損ないかねないことから、危機遺産に登録された理由を理解できました。



ウィーン歴史地区

『ウィーン歴史地区』では、リンクシュトラッセ沿いに様々な時代の建築物が連なり、美しい都市景観を形成しています。落ち着いた色彩と統一感のある街並みを目の当たりにすると、再開発による高層建築や景観に調和しない建物が懸念されます。無形文化遺産に登録されている「コーヒーハウス文化」とともに、この美しい都市景観が末永く守られることを願っています。さらに、この願いが通じたのか、2026年7月に開催された「第48回世界遺産委員会」で危機遺産リストを脱しました。喜ばしい限りです。



ノイシュヴァンシュタイン城

「ノイシュヴァンシュタイン城」も印象的で、遠方から眺めるその優美な姿と幻想的で独創的なデザインは圧巻で、ディズニーランドのシンデレラ城のモデルになったとも言われています。私が訪れた当時はまだ世界遺産ではありませんでしたが、2025年に「バイエルン王ルートヴィヒ2世の宮殿群」の構成資産として登録されました。登録前に訪問できたことに、少し得をしたような嬉しい気持ちです。

——伝える喜び、学び続ける喜び

現在、特に注目している世界遺産は、「第48回世界遺産委員会」で登録されたばかりの『飛鳥・藤原の宮都』です。日本の古代国家形成を物語る貴重な遺産群であり、日本建国のルーツが国際的に評価されました。奈良県内に点在するこれらの遺跡を巡れば、飛鳥時代から奈良時代にかけての歴史を体感することができ、古代日本を学ぶ世界遺産巡りの新たな魅力になるのではないかと期待しています。もうひとつ、熊本県の「阿蘇一火山との共生とその文化的景観」の世界遺産登録に向けた動きにも注目しています。阿蘇にはこれまで何度も足を運んできました。世界最大級のカルデラの中で営まれてきた農耕や人々の暮らし、そして、千年以上続く野焼きや放牧による草原の維持管理など、人と自然が育んできた「文化的景観」が、どのように世界へ発信されていくのか、期待しています。

WHA認定講師としては、2024年4月に北九州市折尾まづくり記念館で「お薦めの世界遺産とその楽しみ方」をテーマに講演させていただきました。同年10月には福津市内で開催されたイベントで、WHA主任研究員の宮澤 光さんや福岡市在住の認定講師・田中 成美さんとお会いすることもできました。2025年には北九州市立年長者研修大学校穴生学舎の「世界遺産コース」を修了し、自由研究で「世界遺産の基礎知識」を発表したり、大学祭では「富士山はなぜ自然遺産ではないのか?」をテーマに約20分間の発表を行ったりしました。今年も世界遺産講座を担当し、慣れないながらもパワーポイントを活用した資料作りに励んでいます。「なぜこの遺産は世界遺産として認められたのか」、「顕著な普遍的価値(OUV)はどこにあるのか」という視点を大切にしながら、世界遺産の基礎知識や楽しみ方、ひとりでも多くの方に分かりやすく伝えていける認定講師を目指して、これからも活動をしていきたいと思っています。



藤原宮跡(大極殿)

写真提供:世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会HP